

# 家の大改装工事

赤谷慶子

來年後期高齢者の仲間入りするにあたり、終の棲家に引越しをせむと決意しき。現在居住する家は豪邸の上、表には楠の大木、裏には櫻の大木三本あり。自由が丘より至近距離にて便利なるにもかかはらず自然豊かなる生活環境これに卓<sup>すぐ</sup>るなし。されど、この家は隣家の十歳年長の従姉妹より借りたり。半世紀以上前、祖父はこの地に千坪を所有しており、その一角を従姉妹の父親、當時山本五十六の參謀なりし叔父が祖父より二百五十坪譲り受けたれば、この土地のみ残り。あとの七百五十坪は祖父他界後に相續のため売却せられき。我が生まれし本家と両親の住みたりし「洋館」合計五百坪は鰐淵晴子といふ女優買ひき。このあたりは海軍村と呼ばれたりしと、聞けり。環八を渡れば田園調布なれど、吾幼き頃は車等たえて通らず、石ごろごろせる大いなる通りなりき。おのれは環八を渡りて「小さき花の幼稚園」に通ひき。そは田園調布教會の隣にあり、フランススコ會の修道院營めり。修道士の著衣には焦げ茶色のフードのつき、腰には繩を巻きたり、幼きおのれに嚴つく畏く見えき。まさに小説ダヴィンチ・コードにいでくる修道士と同じいでたちなり。

この思ひいで深き地域を離れ、八年前まで居住したりき高輪臺へ戻らんとす。そは三十年も暮らし慣れならひし街に、犬友も大勢あり。他人に貸したれば、大改装普請に著手せるは良けれど、コロナの爲アジアよりの資材など多様な部品入らず、工事大幅に遅れたり。例へば床の木材、給湯器の遠隔・制御の部品等なり。元來は長月十一日〈新曆十月十六日〉に轉居の豫定なりしに、トラック及びパソコンの技術者等全ての手配を取消し、神無月一日〈新曆十一月五日〉に改めたり。個人の住民票のみならず、二つの會社の登記改め等々山ほどの手続き我を待ちてあり。八年前も同様なる手はずを踏みきと思へど、今改めてかかる煩ひに直面し、齡<sup>よほひ</sup>重ぬればその負擔に堪へざるを思ひ知らされたり。なほ後期高齢者になるの日を待たずして轉居を決意したるは我ながら快哉を叫びたり。

(令和三年十月二十一日受附)